

編集後記

- ◇ 新年を迎えて読者の皆様のご多幸と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。例年、1月号では「いも類の新品種紹介」の特集を組むことを恒例としてしており、品種登録制度により出願公表されたものについて育成者に解説いただいた。かんしょ品質評価研究会（事務局：いも類振興会）や、ばれいしょ加工適性研究会（事務局：日本特産農作物種苗協会）によって有用な特性が確認されており、今後それぞれの品種が、その特性をいかんなく発揮して広く普及することを期待したい。
- ◇ 昨年末、10月25日から29日までの1週間、例年どおり農水省の消費者の部屋で「さつまいも・じゃがいもの週」が開催された。恒例により、いも類の実物や加工品の展示を行って好評を得たところであり、サンプルの提供に協力いただいた研究機関や企業の皆様には、この場をお借りして感謝申し上げる次第である。新型コロナの影響で各種イベントの実施には依然として制約があるなか、今後とも機会を捉えてPRに努めたい。
- ◇ サツマイモ基腐病については、鹿児島県では8月の長雨の影響等もあって作付面積の6割超で発症が確認されるなど、依然として猛威をふるっており、順調であった輸出振興にも影響が及んでいる。本号では、昨年の8月末に開催したオンラインでの情報交換会の概況をレポートしたが、発生地域は全国に及んでいることから、関係者による情報共有と対策の徹底をお願いしたい。
- ◇ 一方、ジャガイモについては、北海道における干ばつの影響で大幅な減収が見込まれ、加工食品メーカーではポテトチップなどの値上げや内容量の変更を余儀なくされている。来年産に向けては種芋不足も懸念されているが、種芋の増産には複数年を要することから、関係機関による一層の連携協力と計画的な取り組みが望まれる。
- ◇ 昨年の2月以降、新型コロナ感染防止対策の一環として、当会においても交代勤務と勤務時間短縮に取り組んできたが、加えて7月以降にはIT環境の改善を試み、なんとかテレワークが可能な状態となっている。電話での対応には制約があるものの、現在、小康状態となった新型コロナの推移を見守りつつ、IT技術を活用して業務を進めていきたい。

（矢野 哲男）

いも類振興情報 第150号

2022(令和4)年1月15日発行

定価 1部 500円
年間購読料(季刊) 2,000円

発行 一般財団法人 いも類振興会

〒107-0052 東京都港区赤坂6-10-41 ヴィップ赤坂303
TEL 03-3588-1040 FAX 03-3588-1225

E-mail: imoshin@fancy.ocn.ne.jp
郵便振替 00130-1-110152

印刷 株式会社丸井工文社